



### 宮司プレス 第二百号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和五年四月三十日

◇宮司の柴田です。 御神殿東側の藤の花は、

散り尽くしましたが、境内の躑躅(つつじ)の花は、今が盛りと咲きほこっています。 お待たせしました、とうとう、宿願(しゆくがん)の宮司プレス二百号の発行です。 記念すべき

第一号の発行は、今をさかのぼること、十七年前の平成十八年六月五日のことです。

その後、発行日の詐称(さしよう)は若干(じやつかん)ありましたけれども、一月に一回という所期(しよき)の目標をクリアしながら、第五十号は、平成二十二年七月二十日、第百号は、平成二十七年二月二十一日のことでした。

百号を過ぎるころから、発行の遅れが始めまして、遅れの事由等お詫びの文言(もんごん)で紙面を埋(う)めるといふ姑息(こそく)な風習も茶飯事化(さはんじか)したのもこの頃のことです。

発行したのは、令和元年十二月三十一日のことでした。 令和三年一月に、遅れの累積(るいせき)は、十三ヶ月であることに、驚愕(きょうがく)し、一念発起(いちねんぱつき)して、遅れの累積を減らす、キャッチアップ、いわゆ

る、毎月発行の軌道(きどう)の修正のミツシヨンを開始しました。 ミツシヨンは、大袈裟(おおげさ)ですが、一月に二回発行するという計画をひっさげ、果敢に挑戦したのでした。

令和三年は一年で十八号発行、遅れの累積を五号まで減らすことになりました。 私としては、もちろん、二百号発行よりも、軌道の修正が、より大きな目標でもあります。 令和三年の流れをそのまま、令和四年も継続できれば、キャッチアップと二百号の同時達成も現実のものだっただけに、悔やまれますが、二百号達成を慶びつつ、軌道の修正も継続したいと思えます。

これまで継続できましたのも、沢山の方のお支えあればこそですので、心から感謝もうしあげます。

◇昨日は、昭和天皇様(しようわてんのう様)のお生まれになられた日でありまして、昭和祭(しようわさい)を御奉仕申し上げました。 振り返り見ますと、現在は、昭和の元号(げんごう)でいえば、昭和九十八年になりました。 昭和天皇様が、崩御(ほうご)ほうぎよ、お隠(かく)れになられたことで

す)されてより、三十五年になります。 戦前、敗戦、そして日本の五回目目の奇跡(ちなみに、四回の奇跡とは、元寇(げんこう)、明治維新、日清戦争勝利、日露戦争勝利です)といわれる戦後の大復興(たいふっこう)、その原動力(げんどうりよく)、日本人の心の柱、支え、鎡(かすがい)、バランス オブ パワーの御存在こそが、昭和天皇様でなかったかと思えます。 米軍の占領下(せんりよか)、連合軍、GHQを束(たば)ねていたのは、マッカーサー元帥(げんすい)でした。 いまだ、世情(せじょう)が穏やかでない、戦後のどさくさのさなか、昭和天皇様は、宮城(きゆうじょう)をおすまいのことです)を出られて、GHQの指令本部にて、マッカーサー元帥にお会いされます。 陛下は、正装(せいそう、タキシード姿)でした。 マッカーサーは、これまでの歴史上の皇帝がそうであったように、「命乞(いのちご)い」に来たのであろうと思ひ、平服にて会われたそうです。 昭和天皇様は、「朕(ちん)や皇室はいかになろうともかまわない。 民草(たみくさ、国民のこと)を救(すく)えよ」とおっしゃったそうです。 その瞬間、マッカーサー元帥は、「われ、神を覲(みたり)」と心の中で叫ばれたそうです。 後

す)されてより、三十五年になります。 戦前、敗戦、そして日本の五回目目の奇跡(ちなみに、四回の奇跡とは、元寇(げんこう)、明治維新、日清戦争勝利、日露戦争勝利です)といわれる戦後の大復興(たいふっこう)、その原動力(げんどうりよく)、日本人の心の柱、支え、鎡(かすがい)、バランス オブ パワーの御存在こそが、昭和天皇様でなかったかと思えます。 米軍の占領下(せんりよか)、連合軍、GHQを束(たば)ねていたのは、マッカーサー元帥(げんすい)でした。 いまだ、世情(せじょう)が穏やかでない、戦後のどさくさのさなか、昭和天皇様は、宮城(きゆうじょう)をおすまいのことです)を出られて、GHQの指令本部にて、マッカーサー元帥にお会いされます。 陛下は、正装(せいそう、タキシード姿)でした。 マッカーサーは、これまでの歴史上の皇帝がそうであったように、「命乞(いのちご)い」に来たのであろうと思ひ、平服にて会われたそうです。 昭和天皇様は、「朕(ちん)や皇室はいかになろうともかまわない。 民草(たみくさ、国民のこと)を救(すく)えよ」とおっしゃったそうです。 その瞬間、マッカーサー元帥は、「われ、神を覲(みたり)」と心の中で叫ばれたそうです。 後

日、元帥が、回顧(かいこ)されています。その後、元帥は、本国(ほんこく)アメリカに、天皇陛下の戦争責任を追求すれば、日本の国民、一億人を敵にまわすことになると、方針の転換を懇願したそう、六年半におよぶ、占領期間を終了しました。昭和天皇様がいらつしやなければ、今の日本の繁栄はあつたでしょうか。そして、全国各地を御訪問され、再興をはかる国民をばげまされました。このことも、忘れてはならないと思います。そのようなことに思いを巡らしながら、感慨(かんがい)深(ぶか)く、祭典を御奉仕申し上げました。昭和祭は、「中祭式(ちゅうさいしき)」なので、私だけ、「斎服(さいふく)」という装束(しょうぞく)を着装(ちやくそう)しました。準備等、慌(あわ)たしく、一人で、十分で着装完了させました。昭和天皇様をお称(たた)えするかのよう、な、「五日一風十日二雨(ごじついつふうじゅうじついついちゅう、静かな風が吹き、しとしとと雨が降る様子、転じて天下泰平(てんかたいへい)のことです、論語にあります)の朝でした。

◇いよいよ、世界人類の脅威(きょうゐ)であった新型コロナウイルスも上から二番目の「二類」から、インフルエンザ並みの「五類」に引き下げられます。四年間の生活変容に終止符がうたれますが、油断は禁物であります。宮司プレス既刊号(きかんごう)に、地球規模の大惨事であるコロナ禍で、社会的秩序が保てたのは、「日本人の美質」があればこそと詳述(しょうじゆつ)しようじゆつ)しました。経営の神様と言われた松下幸之助(まつした こうのすけ)さんは、日本人の美質ともいうべき「日本人の伝統的鬼神」の特性を三つあげられました。一つは、衆知(しゅうち)、みんなで協力して知恵をだして問題解決するということ、和を貴(とうと)ぶ、助け合い支え合って生活をし、運命共同体としての地域社会を構築してきたのです。さらに、「主座(しゅざ)を保つ」ことだと仰(おつしや)いました。「主座」、それは、常に「国やすけれ 民やすけれ」と、私共国民にお心をお寄せになる、天皇陛下、御皇室の御存在です。当宮では、毎日、午後四時から夕拝(ゆうはい)を行って、昭和天皇様の御製(ぎよせい)を五首奉唱(ごしゅうほうじやう)しよう)しています。そのなかに、

「ふりつもる 深雪(みゆき)にたえて 色かえぬ

松ぞ雄々しき 人もかくあれ」とあります。私の一番好きな御製ですが、雪の重さ、冷たさ、厳しさにも耐えて、色をか

えない、常緑樹の松のような強さを持ちなさいとの大御心であります。これからも、課題克服(かだいこくふく)の毎日ではあります、知恵を出し協力して、天皇陛下御皇室の御存在を心の柱に、松のように強くたくましく過(こ)されることをお祈り申し上げ、二百号記念の宮司プレスとさせていただきます。